仙台市市民活動サポートセンター通信

■ぱれっとは、市内の公共施設、県内外のＮＰＯ支援センターなどに毎月3,000部送付しています。

ぱれっと

2008
10月
No.110

■　目次　■

すぽっとらいと　人と情報が交錯する拠点をまちにつくろう
『特定非営利活動法人 都市デザインワークス』
アラカルト　秋の特集　サポ本を読もう！
サポセン日記　市民活動お役立ち情報
イベント紹介　１０月のイベント紹介
お知らせ

地下鉄西５番出口から１２歩

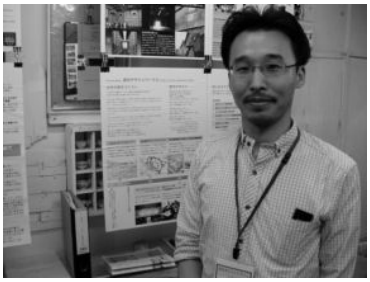
地下鉄の長ーい地下道を案内板に沿って抜け階段を上がると、そこはサポセンの玄関だった！少々の雨や雪が降っても、傘は不要…　バス停も近くにあり、公共交通機関直結のまちなか施設。市民活動に関心をおもちのあなたのお越しを心よりお待ち申し上げます。

すぽっと らいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

人と情報が交錯する拠点をまちにつくろう
『特定非営利活動法人 都市デザインワークス』

８年前から市民提案型のまちづくりに取り組んできた都市デザインワークス。市民と行政と民間企業とともに新たな都市づくりの実現に向けて、30年後の仙台の街の姿を提示し、実践を積み重ねています。今、その先に何を見据えているのか。「仙台まちづくりカフェ」※の会場で、代表理事の榊原進さんにお話を伺いました。



▲　代表の榊原進さん

都市デザインワークスが目指すべき地点。それは、仙台に関するまちづくりの情報や人が集まる＜仙台都市デザインセンター＞をつくること。

このセンターは市民が気軽に立ち寄れるよう商店街の一角に位置するのが理想で、そこに行くと仙台の街の変遷や現状などを絵図や模型などで視覚的に確認でき、今後どういうふうに変わっていくのか、あるいは、みんなはどう変わっていって欲しいと考えているのかをつぶさに知ることができる場。もちろん、地域の悩みやお困り事への相談にも対応してくれます。

運営はまちづくりＮＰＯが中心になり、行政、民間企業も携わって、自分たちの利益だけではなく、街の全体のメリットになるようなまちづくりを進めていく拠点として考えているそうです。これはまさに、今年2回目の開催となる「仙台まちづくりカフェ」が発展した形なのです。こう考え到るまでに、どのような思考のプロセスと実践の積み重ねがあったのでしょうか？

※「仙台まちづくりカフェ」：まちづくりについて、“人と人が出会い情報が交わされる場”（＝カフェ）を仙台につくろうと、都市デザインワークスを含む、まちづくりNPO8団体で運営する、壱弐参横丁（仙台市青葉区）に期間限定でオープンするコミュニティスペース。2007年度から試みられている取り組み。

▲　仙台まちづくりカフェ2008

● ネットワークをつむぎながら

都市デザインワークスの発起人でもある榊原さんは、元々、東北大学の都市デザイン研究室に在籍しながら、仙台のまちづくりに関わっていました。そんな時、“まちづくり勝手案～ ゲートタウン八幡（以下、勝手案）”という活動に参加することになったのです。これは、大学の研究者、ＮＰＯ、行政、コンサルタントが集まってできた“勝手連 仙臺まちづくり応援団”というグループの活動でした。勝手案は、仙台の中で応援する地区（当時は、八幡地区）を勝手に決めて、勝手にまちづくりの提案をしていこうというものだったそうです。この活動を通じて築いた人的ネットワークやまちづくりに携わる楽しさが、現在の都市デザインワークスの活動の基礎になっているといいます。

● 30年後の仙台を想い描いて

都市デザインワークスとして、一番初めに取り組んだものが、“仙台都市デザインマスタープラン”。杜の都・仙台の街は、どのように誕生し、時代とともにその姿をどう変えてきたのか、仙台の位置付けと歩みを、地図や図表を駆使しながら市民に分かりやすく情報提供しています。加えて、都市デザインワークスの都市づくりの理念や仙台に対する想いを表わそうと、30年後の仙台の姿を提言しています。

また、市民を対象に取り組んでいるのが“杜の都ガイドツアー”（以下、ガイドツアー）です。この事業は、青葉山をはじめ広瀬川を軸に拡がる緑地をニューヨークのセントラルパークに見立てた“せんだいセントラルパーク構想”や、“仙台都市デザインマスタープラン”などの現地調査や資料を読み解く中で、杜の都・仙台には、まだまだ知られていない魅力がたくさんあることに気付いたことがきっかけになっています。

団体紹介

特定非営利活動法人　都市デザインワークス

市民提案型まちづくりに取り組む専門集団。市民の目線でまちの基本情報を提供し、まちの将来像を描き、その実現に向けて市民・行政・企業の調整を行います。

▲　杜の都ガイドツアーの様子

＜団体連絡先＞
〒984-0065
仙台市若林区土樋13-3
TEL　022 - 264 - 2405
E-mail　info@udworks.net
http://www.udworks.net/

お知らせ

「杜の都ガイドツアー～いざ！仙台城へ」を開催
■日時：2008年10月11日(土) 9:00～12:30■集合：仙台駅ステンドグラス前■募集：先着順25人/参加費3,000円

その魅力を広く市民に伝えることで、仙台の街やまちづくりに関心を持ってもらいたいという想いがあったそうです。専門のガイドと一緒に街を歩きながら、見慣れた風景に潜む歴史遺産や景観資源など、普段の生活で見過ごしがちな杜の都の魅力を発見できると、参加者からは好評です。

ガイドツアーで工夫しているのが“マイマップづくり”。ツアー後、参加者に地図を手渡し、ツアーで発見したお気に入りの場所などにアイコンシールを貼ってもらうという作業です。作業を通じて参加者同士の会話もはずみます。参加者全員の“マイマップ”をパソコン上で重ねてみると、参加者の新たな発見や興味がどこにあるのかが一目瞭然。こうして集めたデータは、まちづくり提案の材料になっています。

この一連の取り組みが高く評価され、2006年の日本都市計画家協会賞を受賞しました。

● 次なる課題は企業との関わり

このような様々な実践の積み重ねの中で、ＮＰＯや行政との関わりが徐々にできてきた都市デザインワークス。「仙台まちづくりカフェ」も８つのＮＰＯとの連携で運営しています。行政と業務委託などの関係も築くようになってきました。

ただ、まちづくりにおいて大きな主体の1つである企業との関係をどう築いていくか、この点に次なる課題が潜んでいるようです。短期的な事業性を優先する企業の建設活動と、すぐには成果が得にくいまちづくりを結びつけること。都市デザインワークスは、その接着剤、時には潤滑油となれたら面白いと考えているようです。

また、市民＝生活者の新たなニーズを掘り起こし、そのニーズを、民間企業の採算性を確保しつつ、まちづくりを通じてどのように実現するかを考えていく。＜仙台都市デザインセンター＞は、まさにその拠点になるのです。

●継続は力なり、まだまだ続けないと…

法人認証を受けてから５年が経過した都市デザインワークスですが、まだまだ悩みや苦労は尽きないようです。「都市デザインワークスという組織自体があまり認知されていないと感じています。私たちを知ってもらい、活動の輪に加わってもらうには、これからも地道に活動を続けていかなければいけないと思っています。」と、榊原さん。

● サポセンにはマッチング力を！

設立当初からサポセンのレターケースを借りたり、書籍の委託販売を利用したりするなどサポセンのサービスを利用してきた都市デザインワークス。目標を明確に描いている団体がゆえに、期待することは明確です。「サポセンには、コーディネート力、マッチング力みたいなところを強く望みます。地域の困り事の相談があったとき、その解決のためにはあそこの団体が適任だといって、地域とＮＰＯをマッチング。さらには、両者の関係づくりもサポートして欲しいですね。」と期待を込めて話してくださいました。

取材を終えて

今回の取材を通して、特に印象に残ったことがあります。“人と情報が交流する場”が必要だということです。近年＜コミュニティ＞を冠する場所に注目が集まっているようです。コミュニティ・カフェや、コミュニティ・シネマなどです。人々がいかに自分たちの街に関わっていけるかを求め、その模索が始まっています。都市デザインワークスの実践に希望を持ちました。

（担当：大石 俊輔）

アラカルト

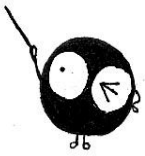
◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

秋の特集
サポ本を読もう！

サポセンスタッフが薦めるサポ本６冊

市民活動・ボランティア活動は社会の問題に気づき目をむけ、それを解決するために行動を起こすことから始まります。

今回紹介する隣り合う２冊は、**問題を知る本⇒解決のヒントになる本**としてご覧ください。サポセンにあるたくさんの本の中から、みなさんの活動に役立つ６冊を選びました。



E：まちづくり

『大震災 問わずにいられない 神戸新聞報道記録1995-99』

編集：神戸新聞社
発行：神戸新聞社出版センター
定価：2,625円（税込）

何を「問わずにいられない」のか。それは、理不尽である。

誰しもが望まない被災により、生活が、仕事が、地区が、地域が変貌した。家を、家族を、職を、コミュニティーを失った多くの市民の叫び。

1995年１月に発生した阪神淡路大震災。本書は、その３月から1999年11月までの５年間にわたって神戸新聞が組んだ特集記事がもとになっている。

復旧から、復興期に入った頃に連載が始まるが、記者が見たのは、被災による心労、経済負担や将来不安を抱える住民が復興過程で直面する理不尽である。個人資産の回復に税を投入しない国の制度、都市復興の機会とみる行政主導のまちづくり、震災後の工場閉鎖や営業所の撤退。そして、転勤の辞令、拒否すれば退職勧奨。個人レベルでは対処できないものも少なくない。

その後震災が起きる度に、制度を見直し、被災者ケアーも変わってきた。本書は、復興期の取材を記録として残すため、震災から５年の節目に出版された。５年を経ても復興過程にあるが、急速に国民の関心が薄れていく危惧感も理不尽の一つに込められている。

（黒澤　学）

E：まちづくり

『阪神・淡路大震災10年 －新しい市民社会のために－』

編者：柳田邦男
発行：岩波書店（岩波新書）
定価：735円（税込）

阪神・淡路大震災の教訓は生かされているのだろうか。

あれほどの被害を出しながら「体験の風化」が進むなかで、規模の違いはあるにせよ日本各地で災害は起きている。

本書は、10年経った被災地の変化と到達点を、市民の立場から検証するとともに、震災によってもうひとつの生き方に踏み出した人々、新しい地域社会の仕組みをつくりだそうとする「自律型市民」の多様な活動を紹介するものである。「ひとは多くのものを失ってそのなかから新しい生き方や人とひとのつながりや、支えあうまちづくりを見出していく。」柳田氏は本書の中でこうつづっている。

次の災害に備える最大の課題は何か。それは、日ごろのまちづくりをリードするために「住民主体のまちづくり」をどう定着させていくかであり、市民と行政、企業、あるいは自治会とNPOが、それぞれの分野を超えて日常的に連携するために、新しい仕組みをいかに作っていくかであると気づかされる。

生きがいを感じられる人間らしいまちづくり、市民主体のまちづくりは被災地だけの問題ではない。

（小松　州子）

H：環　境

『気候変動　＋２℃』

編集：Think the Earthプロジェクト
発行：ダイヤモンド社
定価：1,260円（税込）

「＋２℃」この数字はどれほどの大きさなのだろう。

地球の平均気温が１℃上がれば、サンゴは白化し、高山植物は枯れる。２℃上がれば、熱帯亜熱帯の途上国では農作物への影響が深刻になる。３℃を超えると永久凍土が急激に融けメタンが大量発生してさらに温暖化を加速し、地球システムの変調をきたすような現象が起きる。

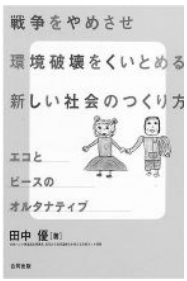
わずか２℃、たかが２℃、されど２℃。本書には、その小さな揺らぎによってもたらされる、未来の地球の姿が描かれている。＋２℃の未来はあくまでシミュレーションだが、可能性は限りなく高い。そうならないための「１６のアクションリスト」も巻末に収められている。

本書を印象づける赤色は、「危険」の赤ではなく「意思」を示す色だという。この本を読んで、この気候の変動をこのまま傍観するか、それとも何かアクションを起こしてみるか、それは読者にゆだねられている。

（大西　千佳）

H：環　境

『戦争をやめさせ 環境破壊をくいとめる 新しい社会のつくり方』



著者：田中　優
発行：合同出版
定価：1,470円（税込）

そもそもの戦争の原因は、「エネ・カネ・軍需」である。

戦争は数々の要因があって起こってきたが、その要因である「エネ・カネ・軍需」を支えているのは、残念ながら私たちのお金であり、生活であり、エネルギーなのだ。

これをあきらめるのではなく、別のしくみに変えなければいけない。政府に働きかけても効果がなく、周りの多くの人に働きかけても反応を示してもらえないのなら、自分たちでまったく別なしくみを考えて、実際にやってみる。

例えば、税金を石油や原子力ではなく自然エネルギーに向け、貯蓄を銀行ではなく市民セクターの投資に変え、買い物はスーパーではなくフェアトレードに、製品の選択を軍需企業製ではないものに変える、ということだけで大きな違いが生まれる。

世界を本気で変えるために私達がやるべきこととして、現実を重視した方法を踏み込んで提案し、新しい社会セクターを創る必要性が書かれている。

（伊藤　浩子）

B：人権・ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ

『生活保護vsワーキングプア』

著者：大山典宏
発行：PHP研究所（PHP新書）
定価：756円（税込）

生活保護の申請を提出させないよう役所の窓口で繰り広げられる「水際作戦」

その一方で、怠け者が生活保護を受給していると指摘される「受給者バッシング」。こういったマスコミがたびたび取り上げる問題の裏に潜む、生活保護が抱える本当の問題（支援者の空洞化、低い自立率、壊れる若者たち）とその解決のためのヒントを、元生活保護課のケースワーカーである著者が照らし出す。

生活保護の目的が「貧しい人を救うこと」になっている現状では、生活できなくなった人を一生保護していく制度となり、様々な問題を引き起こしている。この解決のために、本書では、生活保護の本来の目的である「自立を助長すること」という視点で、入りやすく出やすい制度に変えることを提唱。実際に社会福祉士などの専門家やボランティア、行政がネットワークをつくり、自立の支援に取り組んでいる埼玉県の事例を「希望のさいたま方式」として紹介している。

（太田　貴）

F：子ども・社会教育

『社会を変えるを仕事にする』

著者：駒崎弘樹
発行：英治出版
定価：1,470円（税込）

ITベンチャー企業経営者が、子育てNPOを立ち上げた！

転職のきっかけは、ベビーシッターをしていた母親の一言から。「預かり先の母親が、子どもの病気を理由に仕事を休んだら会社を解雇された」。そこから「病児保育」という当時まだ社会に認知されていなかった問題を知り、それを解消するNPOを立ち上げ事業を興していく。仲間集め、資金調達、協力者の獲得の方法を順を追って知ることができる。

大学在学中に経営者として仕事をこなしてきた著者だが、保育、NPOに関しては全くの知識ゼロ。商店街、行政、病児保育をしている事業所へと、それこそ体当たりで挑んでいく。「社会の役に立つ仕事がしたい」と思い、NPOの世界へと足を踏み入れた。そして、本当に自分が起こした行動によって社会の役に立つだけではなく、「社会が変わっていく」ことを実感した。彼の小さなアクションは、世の中を変えることにつながった。

（内川　奈津子）

◆サポセンのサービスがどんなふうに使えるのか、
スタッフが日常の窓口風景をとおして紹介します！

サポセン日記

～ 市民活動お役立ち情報～

**一枚の紙に
ギュッ。
市民活動の便利帳**

●“市民活動お役立ち情報”って何？

「新聞にイベント情報を掲載したいけど、新聞社の連絡先一覧があったらいいのに」「ボランティアについて相談したいのだけど、どこにいったらいいのかしら？」

そんな、皆さんの疑問にお答えするのが、その名も“市民活動お役立ち情報”です。

既に活動をしている方、これから活動を始めようと思っている皆さんに役立つ情報を、テーマごとに１枚の紙へ“ギュッ”とつめこみました。市民活動の便利帳として、お役立てください。

スタッフが集めたお役立ちテーマは10項目！

	テーマ
1	NPOってなんだろう？
2	チラシ・ポスターを置けるスペース
3	市民活動団体が利用できる機材一覧
4	仙台市内ホールマップ
5	ボランティア相談窓口
6	助成金を受けるコツ
7	規約の作り方
8	報告書の作り方
9	メディア活用大作戦
10	名義後援って、どうやって受けるの？

● どこに、置いてあるの？

サポセン１階情報サロンと印刷作業室内のチラシラックに配架していますので、ご自由にお持ち帰りいただけます。

また、サポセンのホームページからダウンロードも可能です。

http://www.sapo-sen.jp/

＊“市民活動お役立ち情報”をクリックしてください。

（担当：小松　州子）

■新しいボランティアグループを立ち上げるため、準備をしているというサポ子さんが、サポセンに相談にやってきました。

サポ子さん：先日みんなで話し合って、会のルールを決めようということになりました。せっかく作るのですから、きちんとしたものにしたいんです。

スタッフ：メンバーの皆さんが活動について共通認識を持つためにも、組織の「ルール」を作り、書面化しておくことは大切ですね。

サポ子さん：会則を作るうえで、気をつけることはあるのでしょうか。

スタッフ：会の名称、目的、活動内容を明記するほか、会員についての規定なども会則に入れる必要がありますね。

サポ子さん：何か、参考にできる書類はないかしら。

スタッフ：それなら**“市民活動お役立ち情報”**をご利用ください。規約作成をテーマにまとめたものがあります。お持ち帰りできますので、これを参考にしながら、メンバーの皆さんでよく話し合ってくださいね。

▲　市民活動お役立ち情報

イベント紹介 10 月

■サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
■原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
■毎月５日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合せください。

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催／問い合わせ先
10月2日（木） ～全6回 18:30～21:00	手軽に出来る手技を学んでボランティア活動に活用してみませんか。自分の健康管理にも役立ちます。	研修室３	受講料2万 認定申請料１万 教材費7千 （事前申込必要）	JRFA足市場 Tel&Fax：022-223-9023 携帯:090-7564-9831　（森）
10月2日（木） ～15日（水）	Graceful Africa！ ～ウガンダ、ケニア、南アフリカの人たちの暮らしと笑顔～	展示スペース	無料 （事前申込不要）	みやぎの高校生平和ゼミナール heizemiyagi@hotmail.co.jp（山内洋美）
10月4日（土） 14:00～17:00	子どもの「非行」や荒れに親としてどう向きあえばいいのか？その苦しさを一緒に分ち合いませんか？	研修室３	500円 （事前申込不要）	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 Tel:080-1838-7464（星野はるか）
10月4日（土） 17:00～19:00	「傷つきの回復プログラム」－それぞれの生きづらさを開放する糸口を一緒に見つけませんか？	研修室３	1,000円 （事前申込必要）	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 Tel:080-1838-7464（星野はるか）
10月12日（日） 13:20～16:30	シニア元気笑学校・第6期2日目 1校時・エンディングプラン⑥ 2校時・「藤沢周平」を語る	セミナーホール	1日1,000円 教科書、飲み物、おやつ付 （事前申込必要）	シニア元気笑学校 Tel：022-248-3765 Fax：022-248-3775 （校長・渡辺源治）※申込はFaxで
10月14日（火） 10:.00～11:45	親業セミナー 「困った子と言わないで！」 ～親業に学ぶ子どもの接し方～	研修室３	500円 （事前申込不要）	PETフォーラム Tel&Fax：022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/index.html　（石田えみ子）
10月15日（水） 19:00～20:30	印刷物のデザイン・レイアウトQ&A	研修室２	1,000円 （事前申込必要）	メディアデザイン Tel：090-3049-0613 Fax：022-224-5308　（千葉）
10月16日（木） ～31日（金）	チェルノブイリ・カレンダー展 チェルノブイリ原発事故から22年、被曝者・汚染地の今	展示スペース	無料 （事前申込不要）	みやぎ脱原発・風の会 Tel&Fax：022-382-3713 （大友佳代子）※夜8時以降
10月25日（土） 10:00～12:00	文化財と歴史遺産のミカタ／北山五山を通して、先人の文化や業績を、特に青少年向きに説明します	研修室１	無料 （事前申込不要）	みやぎ生涯学習指導・支援センター北支部 Tel：022-279-2053 携帯:090-6457-9517　（吾妻信夫）
10月26日（日） 12:30～16:05	勉強会「日常生活における心臓ペースメーカーとのつきあい方」 講師　東北大学病院　福田浩二先生	セミナーホール	500円 （事前申込不要）	日本心臓ペースメーカー友の会 宮城県支部 Tel&Fax：022-373-6650 （佐藤美智子）
10月26日（日） 13:30～15:30	～心を癒す花の療法～バッチフラワーセラピーミニ講座（体験ボトルを作ってみましょう）	研修室１	2,000円 ボトル代込み （事前申込必要）	バッチネットワーク東北 Tel&Fax:022-378-0832 （村上）
10月26日（日） 開場13:30 開演14:00	仙台沖縄民謡同好会 「遊び庭（あしびなー）」発表会 ～八重山の唄と踊り～	市民活動シアター	無料 （事前申込不要） ※定員150名	仙台沖縄民謡同好会 「遊び庭（あしびなー）」 Tel&Fax：022-718-1872 （野原裕子）

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

＜　申込み・問合せ　＞　TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター（サポセン3階）

奥様もご一緒に
参加しませんか？

■シニア市民活動講座（２回連続）
お父さんの退職は家族の問題！
「定年後、明るく迎えるための
ハッキリ・スッキリ講座」

○１０月１８日（土）　まずは自分のことを知る、考える。
ゲストスピーカー：高橋英夫さん
（仙台ボランティア英語通訳ガイドグループＧＯＺＡＩＮ代表）
○１０月２５日（土）　新しい一歩を踏み出すために必要な情報・方法を学ぶ。講師：渡辺源治さん（シニア元気笑学校校長）

○時　間：いずれも午後1時半～４時半
○場　所：市民活動サポートセンター４階　研修室５
○参加費：各回1,000円
（ご夫婦での参加の場合は2人で1500円／当日受付にて）
○定　員：30名（先着順）

お知らせ　●○●

サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

OtoOpresentsプロデュース公演 7 『お父さんの演技教室』
小学校、放課後の教室。そこでは毎水曜日に妙な講座『お父さんのための演劇教室』が開かれている。美人インストラクターの厳しい指導を受け、自信の持てない「お父さん」たちが半年後の成果発表会を目指し奮闘する。

●公演スケジュール
○開場
各30分前
○受付・当日券販売
各45分前

日時	14:00	19:00
10月18日（土）	○	○
10月19日（日）	○	―

●料金

一般	前売2,000円　当日2,500円
ペア	前売のみ　3,500円
学生・シニア	前売・当日1,500円
高校生以下	前売・当日1,000円
親子券	前売・当日2,500円

●2008年2月に実施した「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」に応募いただいたプログラムから8プログラムを選考し、2008年8月から2009年2月までに毎月実施していきます。

●チケット予約・問合せ先
WEB：「白鳥英一の日々月々」予約フォームより
http://plaza.rakuten.co.jp/otoopresents/
メール：otoo@jt3.so-net.ne.jp
電話予約：090-8255-6304（白鳥）
FAX予約：022-246-4256
※お名前、日時、券種、枚数、ご連絡先をお知らせ下さい。

＜主催：OtoOpresents＞
1999年設立。正式発進は2001年。白鳥英一を代表にメンバーは3名いるが、作品毎にメンバーを募るプロデュース形式をとっている。現在、年に1、2度の演劇公演、白鳥の対外的な出演のバックアップを行っている。

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やＮＰＯ法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

● 開館時間　平　　日 / 午前9時～午後10時
日曜・祝日 / 午前9時～午後 6時

● 休館日のお知らせ（施設点検等のため）
9／24(水)　10／29(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

○貸　　室
(研修室･セミナーホール･市民活動シアター／有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
○ロッカー（有料）レターケース（無料）事務用ブース（有料）
○交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース（無料）
チラシ･ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース（要申込／無料）
○情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の閲覧･貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧（無料）
○印刷作業室
印刷機(紙持ち込み／１製版100円、紙折り機（無料））
コピー機（１枚10円）

■ 問い合わせ先 ■

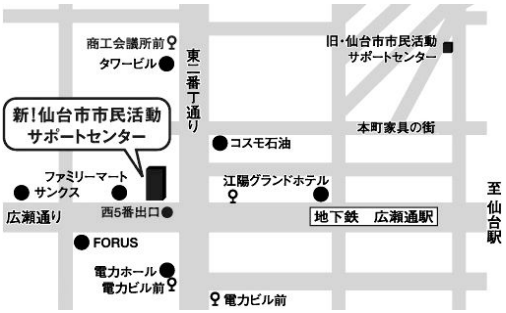
発　　行：仙台市市民活動サポートセンター
（指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）
〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目１－３
TEL:022-212-3010　FAX:022-268-4042
ホームページ　http://www.sapo-sen.jp

発 行 日：２００８年９月２２日
編　　集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編 集 人：小松州子　葛西淳子

★古紙再生紙を使用しています。
★大豆油インキを使用しています。

編集後記
◆ビルの中にこもっていると、とかく外の風を感じにくくなってしまいます。季節の風、社会の風に敏感にアンテナを張って仕事をしていきたいですね。（葛西）
◆今回の「サポ本を読もう！」はいかがでしたか。いつもとは少し視点を変えて読むと、意外な発見があるかもしれません。（小松）

■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車で来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注）路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎＮＰＯセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年４月１日～2010年３月３１日